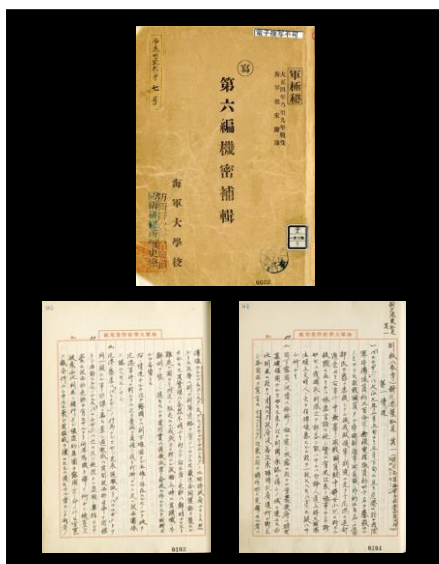


平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

とよだ ていじろう
《 豊田 貞次郎 1885～1961年 》
—和歌山県出身の海軍大将—



対尼港策私見 (登録番号：②戦史-1次大戦-8)

豊田貞次郎大将は、明治38年11月、海軍兵学校(33期)を卒業、海軍次官を経て、商工大臣、外務大臣兼拓務大臣、軍需大臣兼運輸通信大臣などの要職を務めています。この史料は「第六編機密補輯 大正四年乃至九年戦役 海軍戦史附録」(昭和16年8月12日、海軍大学校調製)に綴られている「対尼港策私見 其一、其二」(大正9年6月14日、15日)で、当時軍務局員であった豊田少佐の尼港(ニコライエフスク)事件後の対策を述べたものです。尼港事件は、大正9年3月、ニコライエフスクに駐留していた日本軍守備隊がロシア過激派の攻撃を受けて全滅し、5月下旬、収監中の俘虜及び居留民が殺害された事件です。軍務局は大正9年6月中旬以来、海軍に関する諸施策を考究していましたが、豊田の「私見」は「這般ノ消息ヲ了知スヘキ好資料ナル」と評価されています。



御前会議議事録 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-1087)

昭和20年6月、硫黄島に次ぐ沖縄の失陥により、本土に対する空襲は一段と激化し、大都市はほとんど消失、B-29の機雷投下と敵潜水艦の活動によって、内地と大陸間及び内地港湾相互の海上交通も困難になりました。この史料は「今後採るべき戦争指導の大綱 御前会議議事録」(昭和20年6月8日)で、国力の現状や豊田軍需大臣の発言要旨などが載っています。これによれば、「今後ノ軍需生産維持ハ主トシテ海上輸送力ノ確保如何ニ関シマスルガ故ニ両統帥部ニ於テハ空襲ニ対スル海陸輸送機関ノ防衛ニ関シ強カナル措置ヲ講ゼラレンコトヲ特ニ要望スル次第デアリマス」と述べています。既に長期の戦争を遂行して相当な国力を消耗した我が国は、空襲被害の激増と海上交通の途絶により更なる国力の減退をきたしていました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp